

CFNJ NEWS

サハリン
旅行レポート!

CFNJ 聖書学院 国際部長
グドール・ジェラルド師

「ナルドの香油の注ぎ」
「与えることの奥義」

CFNJ 聖書学院 学院長 鍛冶川利文師

CFNJ 聖書学院 理事長 ロドルフォ・ガルサ師

「世界の為の祈り」

中東が燃えている!

クライスト・フォー・ザ・ネイションズ (CFNI) 総長&最高経営責任者
デニス・リンゼイ師寄稿メッセージ

記念の石

なぜ聖書学校は死ぬのでしょうか?

クライスト・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン 聖書学院
2014年10月・11月号 NO. 157

デニス・リンゼイ師

ヨハネの福音書 12 章 1 節～8 節

「ナルドの香油の注ぎ」

CFNJ聖書学院 学院長 鍛冶川利文

「この女は、自分にできることをしたのです。埋葬の用意にと、わたしのからだに、前もって油を塗ってくれたのです。まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」マルコ14章8節・9節

聖書の中で最も美しいストーリーの1つです。一人の女性が行ったすばらしい模範についてみたいと思います。ヨハネの福音書の12章にはベタニヤという所に住むマリヤという女性が登場します。このマリヤは自分の高価な香油をイエス様の為に捧げました。この行為に対しイエス様は、マリヤに最大級の賞賛の言葉を贈ります。

「世界中のどこでも、福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」(マルコ14章9節)

これは何故でしょうか？何故？これほどまでにイエス様は褒められたのでしょうか？私達もこのようにイエス様から言われたならどんなに喜ばしく感じる事でしょう。このマリヤの行為を見ながら、その理由について見たいと思います。

危機的な状況の中で起こる、美しい行為。

この事はイエス様が十字架に架かれる直前の出来事です。それはとても緊迫した状況の中で起こりました。時として私達の人生においても、安全な時より、むしろ人生の危機の時にこそ神様に対する献身の思いが強くなるものです。イエス様がベタニヤでラザロを蘇らせた結果、多くのユダヤ人たちがイエス様を信じるようになりました。しかし当時のユダヤ人の指導者たちは、逆に民衆の心が自分たちから離れていくのを恐れ、首謀者であ

るイエス様を殺そうと計画します。(ヨハネ11章53節) そのことを知ったイエス様はいったん身を隠す為にエフラムという地に逃れます。しかし、程なく過越しの祭りの前に再びエルサレムの近くのベタニヤにお姿を現わされました。これはご自身の時が近づいていたからです。この時、ベタニヤのシモンの家で(イエス様から癒しを受けた。)イエス様を迎える為の晩餐会が開かれました。過越しの祭りが行われる六日前の事です。この会であのよみがえったラザロがイエス様と共に食卓に付いていました。とても不思議な光景です。そして、マリヤの姉のマルタも賜物を用いて、いつものように食事の為に給仕をしていました。その時！マリヤがやって来ます！マリヤは大事そうに何かを抱えており、その腕に石膏の壺がありました。その壺の中には純粋で高価なナルドの香油が入っていました。マリヤはそっと来て、寝そべっているイエス様の背後にしゃがみ込み、いきなりその壺を割ります。そしてその壺から流れ出る香油を手によく、まずイエス様の頭に注ぎ、やがてイエス様の足にそれを塗りました。そして滴りこぼれそうになった香油を自分の長い髪の毛で拭きました。その時、恐らくマリヤの目には涙がこぼれていたことでしょう。この衝撃的な出来事は一瞬のうちに起こりました。これを誰も止めることが出来ませんでした。恐らく2～3分間、長くても5分位の出来事だったでしょう。弟子たちはただ黙ってそれを見つめていました。そしてそれが終わった瞬間、それ

2. マリヤは「イエス様の埋葬の準備」を行った。

イエス様は仰いました。「マリヤはわたしの葬りの日のために、それを取っておこうとしていたのです。」(ヨハネ12章7節) これはイエス様が弟子達の非難からマリヤをかばうために言った言葉ではありません。むしろマリヤ自身も知らずして行った事の意味を説き明かしたのです。マリヤの行為はこの後にイエス様の身の上にかかる出来事を暗示していました。ヨハネの福音書にはマリヤが足に香油を塗ったとだけ書かれています。これは葬式、埋葬時の行為でした。このタイミングは今でなければできないことでした。イエス様はこの後、犯罪者として捉えられ、葬式や埋葬の準備も出来ずに墓に捨てられてしまいます。ですからマリヤは今でしか出来ない預言的な行為をしました。私達にも今でしか出来ないことがあるのでしょうか？例えそれが人から充分理解されなくても、今しか出来ないことがあるなら勇気を持って一歩踏み出してみましょう。マリヤはそれを行いました。まだ死んでもいないイエス様に向かって、既に死んだものかのように行いました。これは考え方によってはとても失礼な事です。生前なのに葬式を挙げることは、その人に早く死ねといっているようなものだからです。でもマリヤが敢えてそれをしたのは、恐らく、これから起こるイエス様の十字架の姿を直感的に見ていたからかもしれません。

3. マリヤは「福音」のしるしを示した。

イエス様は仰いました。「まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」(マルコ14章9節) マリヤは十字架の贖いのしるしを現しました。

マリヤの犠牲は、自分の将来の為の蓄え、特に女性ですから結婚資金のすべてを捧げたかもしれません。これは簡単な事ではなかったでしょう。しかし、それ以上にイエス様は、ご自身が神であるのに神のあり方を捨て、人類の罪の為に生け贄となり、罰をその身に受けてくださいました。そして死んで捨てられました。

マリヤは、確かに救い主となられるイエス様のために高価な香油を全部注ぎ尽くしました、しかし、それ以上にイエス様は、高価な香油どころではなく、ご自身の尊い命と血潮を十字架の上で、すべて一滴残らず注ぎ出してくださいました！そして私たち全ての罪の罰をその身に受けて死んでくださったのです！

マリヤの美しい行為は、その場にいた人には認められず、それは無駄なことだと非難されました。でもそれ以上に、もしマリヤが無駄なことをしたとすれば、イエス様が行ったことは、歴史上最大の聖なる無駄です！でもこれは人類を愛するが故の尊い無駄です。それが十字架でした。わたしたちもマリヤのようにイエス様だけを見続け、今の自分に出来る事をしていきましょう！■

までそれを黙って見ていた弟子たちの中からいつせいに驚きの声が上がりました。「何てことをするんだ！」「え～どうして？」「わ～！もったいない！」これはマリヤに対する非難や罵声の声です。なぜならこのわずかな時間で、何と年取に匹敵する金額を注いだからです。そこにいた弟子たちは騒然となりました。しかし、その状況を冷静に見て計算し、冷やかな心で非難した弟子がいました。それはイスカリオテのユダです。彼は群れ全体の会計の務めをしていました。ユダはこの流した香油の分量を即座に計算し、「なぜ売って貧しい人たちに施さなかったのか？」と見せかけの善意を語ります。(ヨハネ12章5節) しかし福音書の著者は、ユダがこう言ったのは自分の不正を隠す機会を逃した事の悔しさからであると、その動機を暴露しています。この後、ユダはイエス様を裏切ることとなります。

ここまで見るとマリヤの行為は無謀で無駄な浪費であり、美しいどころか罪に定められるような行為であるかのように非難されます。人は簡単に、自分の価値基準に合わないことならば人を批判してしまいます。でもその真意を読み解く必要があります。この状況の中、イエス様だけがマリヤの心と行為を知っておられました。イエス様が仰った3つの事を見たいと思います。

1. マリヤは「自分の出来る事」を行った。

イエス様は、マリヤの行為を「自分に出来る事」(マルコ14章8節)と言いました。ですからマリヤは無謀で無理な犠牲をしたのではなく、自分に出来る事、可能な事を行いました。それは礼拝の行為です。マリヤは以前、弟のラザロのよみがえりの時、イエス様の存在を疑ってしまいました。しかし奇跡を間近に見て、マリヤはこのお方が神である事が分かりました。ですからこの香油は神への礼拝の捧げものでした。マリヤは「壺」を割りました。これは神の前の「謙遜な行為」です。そして香油を一滴残らず「注ぐ」ことは「献身の表明」でもありません。礼拝は、神の前に自分の存在を投げ出す事です。そこには捧げるものへの執着はありません。目は神へと注がれているのです。ですからマリヤの眼差しは、このお方へとそそがれていました。勿論、そこには弟ラザロを助けてくれた感謝も込められていたことでしょう。でもその感謝の為だけなら、その壺をそのまま差し出す事も出来たでしょう。しかしマリヤはそうせずに全てを注ぎつくしました。これはイエス様を神として崇める行為です。でも弟子たちにはこの行為の意味が理解出来ませんでした。なぜなら弟子たちの目はイエス様より、こぼれ落ちる香油を見ていたからです。人は見るものの中に心が移ります。そして、イエス様をこれから裏切る事になるユダは善意を装い、貧しい人達を見ているふりをして、結局、自分自身にしか目を向けていなかったのです。ここにマリヤと弟子とユダの違いがありました。

記念の石



なぜ聖書学校は死ぬのでしょうか？

■聖書学院が失敗するのにはいくつかの理由があります。ある学校の指導者達は、神から目を離し過去を忘れてしまいます。つまり多くの場合、神への恐れが世間体と入れ替わってしまうのです。学校の指導者達はこぞって影響力のある高学歴の教授陣を雇いたがります。このことは学生を体験的にではなく知識的に、神を知ろうとさせるのです。この結果、学生は、卒業証書はもらっても霊的変革を体験せず、修士号（マスターズ）を取得しても、主（マスター）の命令を全く理解しないで学校を去る事になります。

■オハイオ州にある「オーバリン大学」は、1833年に「ジョン・J・シパード牧師」と「ファイロ・P・スチュワート宣教師」によって設立されました。この二人のミニスターは、キリスト教の原則に基づいて、クリスチャンの奉仕者とリーダーを訓練する大学を設立することに決めました。この大学は、フランスの貧しい人に仕える「ジョン・フレデリック・オーバリン牧師」（「1740年～1826年」フランスの牧師、慈善運動家。）の名前にちなんでつけられました。（日本の桜美林大学の名の由来ともなっている。）19世紀の偉大なリバイバリストである「チャールズ・フィニー」（「1792年～1875年」アメリカの第二次大覚醒の指導者であり、最初のアメリカ人リバイバリストと呼ばれる。）は、この大学の二代目の学長として仕えました。今日の「オーバリン大学」は、セクシュアリティ（性）やジェンダー表現（性表現）について、リベラルな態度を持っています。この大学は、学生によって運営される「セクシャル・インフォメーション・センター（性情報センター）」を持っており、「より安全なセックス週間」や「ドラッグ・ボール（男女装パーティー）」というイベントで目立つ、「トランス・ジェンダー（性転換）認識週間」を主催しています。

■300年以上前に始められたアメリカの大学は、ほとんどが聖書を宣べ伝える学校でした。「ハーバード大学」や、「エール大学」、「プリンストン大学」はかつて豊かなキリスト教の歴史を持っていました。「ハーバード大学」は、クリスチャンのミニスターに因んで名前がつけられました。「エール大学」は、聖職者によって始められ、「プリンストン大学」の1年生の授業は、「ジョナサン・ディキンソン牧師（プリンストン大学の初代学長）」によって教えられていました。「プリンス

トン大学」の紋章には今日も、「Dei sub numine viget」とありますが、これはラテン語で「神のもとで彼女は栄える」という意味です。「ハーバード大学」の1636年の設立趣意書を考えてみてください。「全ての学生の人生の主要な目的は、永遠のいのちである神と、イエス・キリストを知ることであり。（ヨハネ17章3節）このことが明確に教えられ真剣に考えさせられるべきである。それゆえ学生はキリストを、すべての健全な知識と学問の土台とするべきである。」

■今日、これらのリベラルな大学には、キリスト教の遺産はほとんど残っていません。実のところこれらの大学のほとんどは、進化論的世界観から宇宙の起源を強く教え、聖書が真理であるという可能性を拒絶します。そして、聖書に基づいて自分の信念や行動を調整すべきであるということを拒絶します。

なにがあまりにも多くの聖書学院にそのキリスト教的ルーツを捨てさせたのでしょうか？

変化する世界観

■アメリカの大学は、キリスト教的世界観から自然論的、進化論的哲学に変わったことにより、そのキリスト教の遺産は崩壊してしまいました。アメリカ中のキリスト教の大学が、創世記第1章と、創造についての世界観に於いて先ず堕落したのです。自然主義は、聖書の土台的な書物である創世記にある神のみことばに反対します。詩篇11章3節には、「抛り所がこわされたら正しい者に何ができようか。」とあります。土台のヒビが、これらの学校のキリスト教の信念の崩壊に繋がりました。これと比較してCFNI（クライスト・フォー・ザ・ネイション聖書学院）の学生は、聖書的世界観に基づいた、「創造についての講義」を受けることが義務付けられています。

聖書を放置する

■一旦クリスチャンたちが、進化論や地球の歴史が何億年もあるということを含めた自然主義的な見方を採用した結果、彼らの信仰が崩れるのに多くの時間を必要とはしませんでした。彼らは出発点として聖書を捨て、それに取って代わって

自然主義的な科学を受け入れるようになりました。その結果、奇跡や超自然が捨て去られていきました。創世記は文字通りの歴史として書かれていますので、そのように受け取られるべきです。かつてのキリスト教の崩壊は、私たち個人に対して、教会に対して、大学に対して、聖書の明確な教えに堅く立ち、聖書的に健全ではない教えには注意を払うべきであると言うことの教訓となるべきです。

「というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言うてもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。」（第一モテ4章3節・4節）

恒久的なリマインダーである記念の石

■みことばは、私たちが聖書に基づいたミニストリーや学校や人生一般のための基準を保つ事を思い起こさせてくださいます。

「ついでモーセとイスラエルの長老たちとは、民に命じて言った。私が、きょう、あなたがたに命じるすべての命令を守りなさい。あなたがたが、あなたの神、主が与えようとしておられる地に向かってヨルダンを渡る日には、大きな石を立て、それらの上に、このみおしえのすべてのことばを書きしるしなさい。それは、主が約束されたとおりに、あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地にあなたが入るためである。」（申命記27章1節～3節）

「そこで、ヨシュアはイスラエルの人々の中から、部族ごとにひとりずつ、あらかじめ用意しておいた十二人の者を召し出した。ヨシュアは彼らに言った。「ヨルダン川の真ん中の、あなたがたの神、主の箱の前に渡って行って、各自、石一つずつを背負って来なさい。それがあなたがたの間で、しるしとなるためである。後になって、あなたがたの子もたちが、『これらの石はあなたがたにとってどういうものなのですか』と聞いたなら、あなたがたは彼らに言わなければならない。『ヨルダン川の水は、主の契約の箱の前でせきとめられた。箱がヨルダン川を渡るとき、ヨルダン川の水がせきとめられた。これらの石は永久にイスラエル人の記念なのだ。』」（ヨシュア記4章4節～7節）

CFNIのルーツ～12の記念の石

■CFNIのDNAは、12のコアバリューによって代表されま

す。これらはこのミニストリーの柱です。この聖書学院の接着剤です。これらの神による宣言は、教理、道徳、行動の基準を保つ役目を果たします。これはCFNIのビジョンと未来を発見するために本質的に必要なことです。

■聖書の中で多くの場合、神は今なさっておられることを確認するために、過去を振り返ることが記録されています。神は未来に戻っていくのです。私たちの後ろにあるものは、神が私たちに進んで欲しいところとつながっているのです。これは、人がボートをこぐ時に、後ろを向きながら、これから行く所ではなく、今まで来たところ見ながら進んでいくのと似ています。CFNIの未来の方向性を知るために、私たちは昨日とつながらなければなりません。

「主は私に答えて言われた。幻を板の上に書いて確認せよ。これを読む者が急使として走るために。」（ハバク書2章2節）私たちのビジョンは書かれなければなりません。それは私たち自身が何をしているのかを知るためだけではなく、他の人々も知ることができるためです。これは常に方向感覚を私たちに提供し、私たちの成功を測ることを助け、私たちが行動へと動機づけるものとなります。

■1948年に、私の父と母が（ゴードン・フリーダ・リンゼイ）が宣教大命令を達成するために、クライスト・フォー・ザ・ネイションズを設立しました。私たちの目標は、「主を知ることが、海をおおう水のように、地を満たす」（イザヤ書11章9節）ことです。しかしながら私たちは、神の約束の成就を待ちながら、自分たちの果たす分を忠実に果たし、そしてパトンを渡していかなければなりません。

CFNIの12の記念の石

1. 御言葉（弟子訓練、品性の建て上げ）
2. 祈り（とりなし／霊の戦い）
3. 超自然（奇跡と聖霊の賜物）
4. イスラエル（世々にわたる神の計画）
5. 信仰（水上歩行者-信仰の民）
6. 与えること（与えるために生きることを学ぶ）
7. 宣教（すべての人は宣教師であるか、宣教地であるかのどちらか）
8. 訓練（変革的教育）
9. 礼拝（神との親密さ）
10. 人間関係（一致／コミュニケーション／ネットワークづくり）
11. 正直さ（妥協をしない）
12. レガシー（次世代にパトンを渡す）

※ CFNI は、1948年に、「ゴードン&フリーダ・リンゼイ」によって宣教のミニストリーとして設立され、現在は「デニス・リンゼイ」総長によって導かれています。CFNI はイエス・キリストの福音によって人類にインパクトを与えるために存在しています。

CFNJ 聖書学院 国際部長 グドール・ジエラルド記

サハリン旅行レポート!

20数年前に、ペンテコステ系の教会は、サハリンに1つしかなかったそうですが、現在では、何と!



ペンテコステ教会監督のピーター牧師夫妻と昼食。

▼ピーター牧師は、サハリンを含めロシア東部の425のペンテコステ教会の監督牧師です。サハリンには彼の67以上の教会があると言われておられました。重責を担っている人ですが、終始笑顔に溢れていたことが強く印象に残りました。この点は笑いが溢れている石田先生と共通する部分です。(写真・ピーター牧師夫妻と共に)



の30万円が引き出され、後に10万円戻され、その後何もなくたつたそうです。私は、このしばらくの間続いた訓練に耐えたピーター牧師を深く尊敬します。みことばにあるように、主はすべてを働かせて益としてくださいます。結局あの時逃げた宣教師達は、後にピーター牧師のところに来て謝罪しました。このこと全体を通して、それまで疎遠な関係にあったサハリンのペンテコステ系の教会とこの国の系列の教会の仲が良くなったのだそうです!ハレルヤ!

ピーター牧師は白ロシアの出身です。彼の祖父も父親も福音のために投獄されています!

▼父親は5年投獄されました。祖父の時は、祖父自身が自分の子供4、5人と共に投獄されました。でも誰も福音に妥協することなく、忠実に信仰を守ったのです!結局祖父の子供のうち4人が牧師になり、ピーター牧師の兄弟も自身を含めて3人が牧師をしています。KGBとの関係を聞いたら、ピーター牧師が1987年サハリンに来た当初の3ヶ月は、毎日朝と晩に常に行き来したそうです。しかしその後尾行がビタツと止まりました。しかし、今も監視されていることは認識しているそうです。最近、ピーター牧師の方から彼らのところに行き、様子を伺うと、ウスベキスタンなどのアジアの国からの労働者の流入に対処するのに忙しく、教会のことはあまり監視できないと言われたそうです。(笑)ピーター牧師とクリスチャンのことをKGBは、「君たちは忠実な、いい人たちだ」と言っているそうです!なんということばらしい証しでしょうか!

祈りの力!

▼今回の旅を通して、祈りの力を知りました。

最近の迫害。「迫害はないのですか?」という質問に、ピーター牧師は次の体験を教えてくださいました!

▼今から3、4年前にある国の教会が24人の医師を含む130人位の医療伝道団を連れて来て、無料の診察、医薬品提供などを行ったそうです。結局、当局から訴えられ、責任者を出せと言われた時、当初このグループを招いた宣教師達は逃げました。その時責任を取ったのがピーター牧師でした。裁判で、5000万円の罰金を命じられました。知り合いの裁判官から、「これは、ある人物が個人で訴えているから、法廷で争わない方がいい」と言われました。結局、ピーター牧師個人の銀行口座から残高全部



無事に北海道に帰ってきました。他にも幸いなき出会いが与えられ、主がサハリンにおいて、救いやいやし、回復をなし、力強くご自分の教会を建てあげておられることを知ることができ感謝でした。今後、サハリンの隣人である私たち北海道のクリスチャンがどのようにかわっていくべきか、主のみこころを求めています。どうぞ今後も共に祈りください。

今回の旅のために祈り、あるいはささげてくださった方々に心より感謝いたします。

在、主、グドール・ジエラルド

「山をも動かす祈り」

ゴードン・リンゼイ著 再版



無料プレゼント!

●ゴードンリンゼイ師著書の「山をも動かす祈り」が再版されました。ご希望の方には無料でプレゼントいたします。教会単位でお申し込みされる方は50冊まで。個人の方は1冊から10冊まで、お申し込み下さい。(送料実費負担)

ハレルヤ!このたびの導きにより、サハリンに行ってきました!

▼キリスト聖協団札幌教会の「石田吉男牧師」が、今年になって祈りの中でサハリンに行く導きを主から頂きました。私は、20年前にCFNJ 聖書学院のアウトリーチで行ったことがあるのと、昨年CFNJ 聖書学院にゲスト・スピーカーとして来てくださったサハリンの「エレナ・エレミーヴァ牧師」と面識があるということで、英語・日本語の通訳をお願いされました。エレナ牧師は英語を流暢に話します。

2014年8月18日(月)

稚内からサハリンの南部にある港町ニルサコフ迄、5時間半のフェリーで行き、無事サハリンに着きました!



(写真・ヴィクター&エレナさんと共に)

この日の夜、早速ヴィクター&エレナ・エレミーヴァ牧師

▼稚内が日本の最北端の玄関であることと再確認しました。近年サハリンと稚内の間をロシア人や日本人が行き来するのが増えているようです。フェリーの往復の価格は4万円位です。コルサコフから車で50分位でサハリンの州都ユジノ・サハリンスクに着きました。宿泊はユジノ・サハリンスク市の北側のガガリン公園に面するガガリンホテルです。

サハリンのための日本人クリスチャンの祈り!

▼石田先生から、戦前の樺太(現在のサハリン)には、13の日本人の教会があったことを聞きました。そして、この日本人クリスチャン達はサハリンの祝福、救いを祈っていたのです。このことをピーター牧師に伝えるとき、彼は大きく感動していました。「自分たちの祈り以前に日本人クリスチャンが祈っていたのか!」と。

もう一つ、ピーター監督が感謝していることがあります。それは、今のサハリンのクリスチャン達が祈っていることにより、自分が逮捕されずに、自由が保たれ、福音を語り続けることができています。

私たちの前の時代からの祈り!

▼樺太時代の日本人クリスチャンがサハリンのために祈っていたことに驚いたのはピーター監督でしたが、どこから聞きつけて来たのか、私たちが帰る前の水曜日の夜に、祈禱会を終え、その後の洗礼準備会を終えた後に、なんと近くのバプテスト教会の牧師が訪ねて来て下さいました。彼は現在サハリンの教会の歴史に関する本を書いておりました。私たちの来訪によって、福音派の流れにあるバプテスト教会の牧師先生とも交わることができて感謝でした。

私たちの前の時代のクリスチャンが私たちのために祈ってきてくださったように、私たちも、祈りを積み上げるなどの大切さを覚えさせられました。それは、次世代のためでもあり、私たち自身のためでもあります。

主のみこころにかなった祈りは答えられます!

「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。」(1ヨハネ5章14節)

主のみこころは、みことばにある通り、イスラエルが救われ、回復すること(ローマ15章12節・25節・26節)です。その成就のために祈り続けること、そして、日本の大里バイバル、世界の大里バイバルが必ず来ることへの確信を再び得ました。

「その後、私は見た。見よ、あらゆる

昨年日本から献品した「日産セレナ!」

▼昨年日本の多くのクリスチャンからの献金によって日産のセレナを購入し、サハリンの教会に献品することができました。サハリンの中央に位置するポロナイスクという町を中心に、四つの教会の牧会・伝道のために日々このバンを用いているのがヴィクター&エレナ牧師夫妻です。「くれぐれも日本のクリスチャンのみなさんに感謝を伝えてください」と言っておられました。

今回の旅においても、ヴィクター&エレナ牧師の古くなった教会堂の窓の改修のための献金や、糖尿病を患っている3人のクリスチャンの方のために、ラカントという甘味料を献品することができました。8月21日(木)に





愛するとりなし手の皆様へ



世界の為の祈り

チャールズ&ダイアン グリコ

▶ シリヤ

■世界に知られているように、1万人ものイスラム・ジハード主義者を有すると報告されているテロリスト軍隊を持つISIS* (イラク・シリア・イスラム共和国)のあらゆる『敵』のうちで、彼らが最も嫌悪している敵がキリスト教徒たちです。このテロリストの軍人たちは、シリアとイラク内のキリスト教徒を虐殺し、教会を全焼させるといったことを繰り返して行っています。シリアは、もはや国家という状態ではなく、1,200万人ほどのシリア人が住むところを失い、男性、女性、子供たちが国から避難しています。『シリアで大量虐殺が行われている内戦中の、親政府側か反政府勢力のいずれかによる強姦が、シリアの少女や女性がシリアを脱出せざるを得なくしている主な理由です。(frontpagemag.com; 2013年1月2日; フランク・クリミ)』

- 住むところも、仕事もなくしてシリアから避難した1,200万の男性、女性、子供達、普通の生活を送る希望をなくしている彼らのために祈りましょう。
- シリア人の少女たち (なかには12歳という若さの少女もいます)のために祈りましょう。彼女たちの『...両親は餓死しないために、見ず知らずのイスラム教徒の男性たちに性的玩具として強制的に彼女たちを売り、むりやり早く結婚させるのです。』(前述記事と同じ出典) ジャーナリストのフランク・クリミのレポートによれば、『彼らが(若い処女の少女たちとの)性的な関係を持った後、すぐに少女たちと離婚します。多くの場合、結婚後たったの数日間、さらには数時間後で離婚することさえあります。』(前述記事と同じ出典)(シャリーア(イスラム法)は、こうした小児性愛を許可しており、実際に奨励しているのです。)
- 難民キャンプでシリア人に仕えているキリスト教者が強められ、イエス・キリストの福音の良い知らせを分かち合うために、聖霊によって力が与えられるように祈りましょう。人々がどんなに多くの悲劇的な苦難にあったとしても、イエス・キリストの福音は彼らの心と人生に平安と希望をもたらします！

▶ イスラエル

■ユダヤ-アラブ紛争は、ガザのハマスのテロリストたちがイスラエルの町や村を狙って行う24時間のロケット弾攻撃の停戦期限をいつもハマスの側が破るために、イスラエル軍はハマスの拠点-意図的にガザの人口密度が高い民間地域の地下深くに潜伏場所として設置されている場所-に発射せざるを得なくさせられるという、制御不能な悪循環に陥っています。(マオズイスラエルレポート 2014年8月)

- イスラエルを批判したり、イスラエルが自国のため、自分たちの国民のいのちを守るために戦うのを世界中の指導者と国々が停めさ

せようとしたりすることを止めるように、指導者たちと国々のために祈りましょう。特に、ベンジャミン・ネタニヤフ首相のために祈りましょう。一神様がネタニヤフ首相を導いて下さり、イスラエル人、世界の指導者たちおよびイスラエルの敵に対して、彼に知恵の言葉を与えて下さるように。

- 愛する人を失ったイスラエルとガザの家族たちの為に祈りましょう。主の愛、憐みと恵みで人々を強め、慰めて下さるように、主を呼び求めましょう。
- ガザとイスラエルの人々のために祈りましょう！- イエス様が愛と恵みを顕わし、人々がハマスのこの恐ろしい戦争から脱出の道を見つけることができるよう助けましょう。

▶ イラク

■2014年8月12日、『ある朝起きて、あなたの家の正面に赤いスプレーで、あなたがキリスト教徒であることを示すシンボルが塗られているのを見つけた時のことを想像してみてください。』アラビア語で「ナザレ人」を意味する"nun"の文字が最近、イスラム国家テロリスト軍 (ISIS) によって (イラク国内の) モスルという都市のキリスト教徒の家々にペンキで書かれました。その後、7月17日には、キリスト教徒たちは『イスラム教に改宗するか、高い税金を支払うか、さもなければ死』という選択肢を突き付けられました。「殉教者たちの声」の働き人の報告によると、ある人々は『シャハーダ』(イスラム教の信仰告白)を唱えて、税金を支払わずにとどまるために...イスラム教徒に改宗しましたが、ほとんどの人々は家族のいのちを守るために、自分たちの所持品も持たず、徒歩でその町から逃げました。

- これらの迫害されているキリスト教徒の安全のために祈りましょう。また、キリスト教徒に対する暴力がエスカレートし続けているなか、キリスト教徒たちに「殉教者たちの声」の働き人たちが、衣類、洗面用具や食べ物を渡していますが、その働きが拡大せざるを得なくなっているため、より多くの国際的資源のために祈りましょう。
- イスラム国家テロリスト軍 (ISIS) による悪魔的な攻撃によって両親や親族を亡くした、たくさんの幼い子供たちの心を聖霊様が慰め、平安をもたらして下さるように求めましょう。

▶ クルジスタン

■アメリカのニュース各社は、イラク北部と東部シリアの広い領域を制圧しながら、イスラム主義国 (ISIS) が広大な軍事および財政的資源を押し出したその速さにアメリカ政府の指導者たちがいかに「驚いた」か、を引用しました。クルドの首都アルビルでは、何千人もの人々がイスラム過激派の略奪から逃れるために山間地域に逃げています。(ヤズイーディー民族が、シンジャー山と呼ばれる不毛



中東が燃えている!

な山岳地帯の頂上で包囲されています。) フォックス TV ニュースレポートは、極端な暑さにさらされ、食料と水不足で死にかけているシンジャー山にいる何千人もの人々 (非常に若い人々から、非常に年老いた人々まで) を映しました。ほとんどの人が裸で、その背中にかけている衣服を除いて他にはほとんど何も持っていません。主の心と同じように、世界中のキリスト教の心、これらの難民が耐えている苦しみに対して悲しみと同情でいっぱいです。主に介入して下さるよう求め、次のことを祈りましょう。

- 人道的支援が可能な限り迅速に、世界中から届けられるように祈りましょう！
- シンジャー山頂にいる難民に援助物資を届けるために、ISISからの攻撃の火の下をくぐっているヘリコプターや輸送機パイロットの安全のために祈りましょう。
- 兵器や戦略的サポートが、クルド人「ベシュメルガ」の兵士たちに供給されるように祈りましょう。ベシュメルガ(「死に直面する者」の意味)はよく訓練されており、ベテラン兵士たちを非常に尊敬する戦士たちですが、さらなる軍事的支援の追加なしには、ISISの猛攻撃に対処することはできません。
- アメリカの爆弾とドローンによる攻撃のために主に感謝し、この攻撃がイスラム国家テロリスト軍 (ISIS) が打ち破られるまでさらに大規模に継続されるように祈りましょう。クルド人ジャーナリストのナモ・アブドゥッラは、「(ISISの) 過激派は、命よりもはるかに死を愛しています。彼らは何も気にせず、彼らは単に殺したいのです。」と語りました。
- イスラム国家テロリスト軍 (ISIS) のジハード主義者からの恐怖、パニックと脅迫からイラク人やクルド人のキリスト教徒たちを解放して下さるよう聖霊様に求めましょう！『神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と憤みとの霊です。』(第二テモテ 1:7)

プレイズ・レポート!

■何千、何万人ものイスラム教徒が救い主イエシュア (ヘブル語のイエス) のもとに来ています! (www.maozisrael.org) (pg.2-8/14 マオズイスラエルレポート) そうです! 全世界はバラバラになっているように見えますが、キリスト教徒が聖霊様によって靈感を吹き込まれた聖書預言の理解を求めるとき、神様は今、何をしているかをはっきりと見るでしょう! これは確かに、クリ

スチャンが、神の子であり、道であり、真理であり、いのちであるイエス様の救いを必要としている多くの人々の人生に触れることができる道を神様が開いて下さっている時なのです!

- イスラム主義者たちから、その首に6000万ドルの懸賞金がかかけられているザカリア神父。彼は自国エジプトから追放されたコプト・キリスト教徒ですが、衛星テレビによって毎日5,000万のイスラム教徒に向けて説教をしています。イスラム教徒のための最近の伝道集会で、ザカリア神父はエジプトで250万人、パキスタンにおいても同じくらいの人数、スーダンにおいては500万人のキリスト教徒への改宗者がいることを報告しました。彼は、この30年間で、イスラム教徒がイエス・キリストを通しての救いを信じるようになった数は、過去14世紀間のイスラム時代の数よりも多いと語っています。
- 受賞作家であり、ジョゼフ・ファンダの創立者であるジョエル・ローゼンバーグは、アルジェリアで年に1万人、モロッコでは年に3万5千人、サウジアラビアでは年に5万人のイスラム教徒がキリスト教徒になりつつある、と報告しています。また、アフリカでは、年に約600万人がキリスト教に改宗しています!
- 主をほめたたえましょう...『罪の増し加わるところには、恵みも満ちあふれました!』(ローマ人への手紙 5:20) あまりに多くの人々が世界中で戦争や自然災害、病や疫病などで苦しんでいるのを見て、私たちはみな悲しみと痛みを経験しますが、人類に対する邪悪なサタンのもくろみを主が明らかにしておられるのを私たちは見ることができます。聖霊様、あなたに求めます。あなたの悔い改めの霊を注ぎ、何千何万もの人々を、神のひとり子であり、彼らを愛し、彼らのために十字架にかけられたお方、イエス様のもとに引き寄せて下さい。人々が主のご臨在の中で永遠のいのちの喜びを経験することができますように。主の偉大な愛と憐みによって、

チャールズ&ダイアン・グリコ



入学式



■去る、9月8日、午前9時より、2014年度2学期の入学式が執り行われました。この日、四名の学生が新たな学びをスタートしました。これより始まる学院生活、全ての必要が備えられるようお祈り下さい。

二十歳の時にキリストを信じ受け入れ、40年過ぎでの聖書学院は、私にとっては「嬉し、恥ずかし」です。若い人々と机を並べての学びは、新鮮でもあります。また、初めての寮生活も色々な体験が待っていると思うと期待と不安で一杯ですが、「万事を益として下さる」神に感謝し、ただ前進あるのみ！です。

石井 敏一 (大阪)



「願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからである」とのみ言葉を与えて下さり、主人と共に聖書を学ぶ素晴らしい環境を与えて下さった主に心から感謝いたします！一日一日を大切に、新しい気持ちで学んで行きたいと思えます。

石井 洋子 (大阪)



ハレルヤ！主の御名をほめたたえます！1度目の入学から20年近くの年月が経ってしまいましたが、念願の復学がやっとかきました。2度目の出産を経て今度こそ落ちついて通学が出来そうです。主は本当に憐れみ深いお方。20年も待って下さいました。与えられた期間をじっくり学びたいと思えます。

森本 薫 (札幌)



賛美に溢れ、祈りに溢れ、御霊の臨在を全身で感じられる学院での生活。このような環境に置いて下さった主に感謝し、主の麗しさを味わい噛みしめている毎日です。初心に帰って聖書を深く広く学ばせていただきたく思っております。

堀本 正美 (札幌)



The Mystery of Giving

「与えることの奥義」

CFNJ 聖書学院 理事長
ロドルフォ・ガルサ師



ヨハネの福音書6章1節～14節は、イエス様が少年の差し出したわずかなパンを増やし、数千人に与え、その残ったパンが12のかごを一杯にした、という物語を私たちに語っています。

私たちは、自分たちのすべての行動をよく考え、論理的に判断し、論理的思考と実際的な経験に基づいて知的な歩みをするを教える世界に生きています。そこには、通常の学校では教えるのを禁止している科目かのように、超自然の余地はありません。なぜでしょうか？ その理由は、私たちは奇跡を信じるのではなく、現実的な事実だけを信じるように教えられているからです。

この物語の中には、イエス様が弟子たちに教えたいと願った、超自然的な人生への入り口があります。イエス様に従って、祝福された超自然的な人生を生きるために大切な3つのことを、この物語から見てみましょう。

1) あなたの質問には、すでに答えがあります。

イエス様はピリポに「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか？」と質問しましたが、イエス様はご自身がこれから行うことをご存知でした。イエス様は、ご自身を信じるようにチャレンジを与える人々に、ご計画とビッグ・サプライズをお持ちです。

質問は、ピリポに向けて語られました。ピリポは、イエス様によって主の使徒となるように召された、最も弱い弟子の一人のようです。ピリポはイエス様と共に歩み、主が数々の奇跡を行うのを目撃していました。しかし、聖書を見るなら、ピリポは不安を感じ、疑いを持っていたように思われます。彼のイエス様に対する応答は、まるで計算機で数量を計算し、そんな数の必要を満たすことのできるパン屋など、見つかるのは不可能であることを発見した高校生のようなものでした。さらに、彼の数学的論理と厳格なメンタリティが奇跡を信じることを妨げ、その現実的なコストを見た時、それほどの量のパンを買うお金がないという事実の前に、彼は冷たく凍りつき、止まってしまいました。疑いは、恐れのも最も強力な武器です！！私たちは、主にはご計画があること、主が私たちに望んでいるのは主に信頼することだ、ということ信じなければなりません。

2) イエス様と一緒に小さな始まりは、あなたを遥か遠いところまで連れて行きます。

アンデレはペテロの兄弟であり、聖書によれば、他の使徒たちの誰よりも信仰において成熟していましたが、それでもなお、主を完全に信じるまでには及んでいません。アンデレはイエスがピリポと話していた会話を聞いて、どんな形でも助けたいと思い、5つのパンと2匹の魚を持って近くいた少年を巻き込みました。しかし自分自身にこう尋ねます：こんなにたくさんの人々に、これがいったい何になるというんだ？ 彼はすべてに勝るイエス様の力の偉大さをまだ理解する事ができませんでした。

3) イエス様は弟子たちに、与えることの奥義を教えています。

イエス様は、すべての良いものとすべての賜物は上からくる（ヤコブ1:17）ものであることを認めて、それらを与えて下さる天の父に感謝を捧げます。それからイエス様はパンを裂き、魚を分け、それらを使徒たちに渡します。そして、使徒たちがそれぞれ、同じ手順で群衆にそれらを分け与えると、驚くことに、彼らのまさに目の前で奇跡が豊かに起こさ

れていくのです！そこにいたすべての人々が、お腹いっぱいになるまで食べ終わった後、余ったものを集めると12のかごがいっぱいになりました。なんと不思議でしょう。イエス様を信頼することにおいて疑い深く、弱かった人々の信仰が、どれほど増し加えられたことでしょうか。

私たちの現在の必要

私たちは今、パンの入ったかごと数匹の魚を持っている人に向かい、手を差し出しています。それはあなたかもしれません！

CFNJ 聖書学院には、男性、女性を大宣教命令のために訓練してきた長い歴史があります。神のみことばに飢え渴いているたくさんの人々がいます。しかし私たちに資源がなく、財政的に苦しい時を過ごしています。この学院を続けて運営していくために、**今年の年末までに500万円の必要があります。**助けていただけませんか？

イエス様が私たちに聞いています。「私たちはどのようにしたらいいのかわかるか？ どうやって、この危機を脱出するのか？」しかし、イエス様はすでに答えをお持ちです！

財政的資源を得るために多くの人間的な戦略を考えて来ましたが、それらはすべて、非常に限られているように思われ、私たちはまず祈り、神様が私たちのただ中であって下さることを見たいと思っています。

あなたが今このニュースレターを読んだのは、たとえそれがわずかなとしても、パンを持っている者として、主があなたをお呼びになっているのかもしれない。あなたが持っているもので助けとなることができます。そして、主が時にかなってそれをあなたに何倍にも増し加えて戻して下さい！

イエス様は私たちのただ中で奇跡を行って下さり、あなたのパンと魚がいろいろな方法で増し加えられ、あふれるほどになり、最後にはあなたの元に戻って来るのを受け取ることでしよう。

CFNJはあなたの助けを必要としています！あなたはヨハネの福音書6章の少年となることができます。わずかなもので、多くの人々を養いました。私たちは、どんなにわずかなものであっても、感謝をささげて喜んでイエス様の御手に委ねます。そして私たちは、あなたを含む私たちみんなが驚き、祝福を受ける奇跡の主が起こして下さることを信じます…

ロドルフォ・ガルサ・ガルサ

2014年9月13日～15日迄

12

YFN 2014 レポート!

今年もユースフォーザネイションズが開催されました!

メディアやゲームなど、神様との時間を邪魔しているものを生活の中から除く!

ハレルヤ! 主の御名を賛美します!

今年もYFNがCFNJ聖書学院を会場に行われました。今年は「ノアは神と共に歩んだ」をテーマに、エレベートチャーチの「佐々木拓也師」を迎え、「終りの時代に生きている者として、主と共に歩む生活をする」というチャレンジを受け取るキャンプとなりました。特に、メディアやゲームなど、神様との時間を邪魔しているものを生活の中から取り除いて、その時間を神様との時間に使うという具体的なチャレンジがあり、多くのユースがそのチャレンジに回答していました。集会の後のスモールグループでは、さらに具体的に、自分がやめるべきものは何か、自分と神様との時間を何が邪魔しているかなどを話し合い、お互いに祈り合う時間となりました。また今回は、主の御顔を求める祈り会がYFNの中で行なわれ、若い世代が祈りを通して変えられていっている姿や、ここ数年でユースの神様への飢え渴きがますます大きくなっているのを見る時に、この日本に収穫の時がいよいよ近づいている事を感じます。今年も全てが守られ、ユースが献身する場としてYFNが用いられた事を感謝します。全ての栄光がイエス様にありますように。

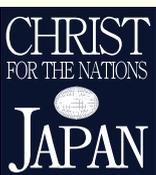


2015年4月からの入学・14年度の1月(3学期)からも学べます。

新入生募集中!



宗教法 人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネイションズ日本校



CFNJ 聖書学院

〒061-3216 北海道石狩市北6条5目157
(0133)74-1341・1342 Fax74-1343

HP:www.cfnj.com E-mail:office@cfnj.com
郵便振替:02780-4-4688 学院長 鍛冶川利文



<学院の特徴>

- ・臨在溢れる賛美礼拝
- ・御霊に満ちた講師陣
- ・実践的なカリキュラム
- ・国内外のアウトリーチ
- ・独身寮・家族寮完備
- ・アメリカ留学編入制度
- ・多彩な選択科目
(演劇・ドラマクラス・ピアノ・タンバリン・ドラム・英語・ボイス)

<コース>

- ・アルプスコース
(牧師リーダー)
- ・1・2年コース
- ・短期コース
- ・通信/聴講コース

無料体験入学

実施中!(3泊4日)
平常授業のある3日間

※学院案内などの取り寄せは、事務局まで問い合わせ下さい。